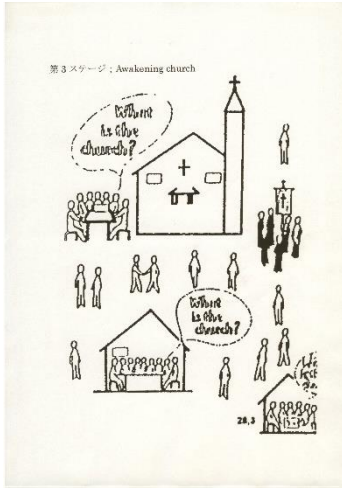


ぜんいんさんか きょうかい め ぎ 全員参加の教会を目指して (Towards a Participatory Church) (4)

たかまつきょうく にしかわやすひろじよさい
カトリック高松教区 西川康廣助祭

II. きづきのプログラム (Awareness Programs)



第2ステージ教会と第3ステージ教会イメージを見比べて、どのような違いに気が付きますか。テーブルを囲んでいるグループが増えていることに気が付きます。第2ステージの小教区評議会は少人数のみでしたが、後の大多数の信者も教会家族であり彼らの働きも必要です。そこで次の第3ステージの気づきの教会 (Awakening church) を目指す必要があります。これを通して様々な活動団体が教会活動を構成するようになる。しかし、どのグループもみ言葉が中心にあります。

A. 7ステップ法によるみ言葉の分かち合い体験

(前準備) 全参加者は「7ステップ法」のカードと聖書 或は使用箇所のコピーを持つ

導入: 今回、み言葉の分かち合いのための「7ステップ法」を体験したいと思います。そのためには、各ステップをよく踏まえ、意味するところを覚えておかなければなりません。各ステップをあまりにも急ぎ過ぎると、分かち合い方法が意図する精神を、経験できなくなる恐れがあります。

A. 7ステップ法はどのようになされるべきか: グループの全員は、7ステップ法の一つ一つの段階に沿っていきます。各ステップの「要約」を見てみましょう。

要約:

<ステップ1> ファシリテーター (世話人、まとめ役) は、パーソナルな、また親しい言葉づかいでイエスを招くようグループの誰かに頼みます。イエスが招かれた様子を描いている聖書の言葉を使って言い表してみます。例えば、ザケオの話 (ルカ 19.1-10) とかマルタの話 (ルカ 10.38-42) とかを使ってみる。

<ステップ2> ファシリテーターは、まず、聖書の名前と章だけを告げます。みんなが告げられたところを正しく探し当ててまで待ちます。全員がテキストを開いた確認が済んだら、〇〇節～〇〇節まで、誰かに本文をゆっくり、そして祈るように読むよう頼みます。

<ステップ3> グループの一人ひとり、読まれた箇所の中から一つの言葉、或は短い句を選び、それを3回声に出して言います。(間で沈黙を置く) この部分を、初心者は急ぎすぎる傾向にありますので気をつけましょう。それが大切な意味を持っていると思うなら、たとえ一語であっても選ぶことができます。何か「特別なことば」を無理して探し出す必要はありません。長い時間をかけないで、どんな言葉でも選び出すことができます。

<ステップ4> ファシリテーターは、3～4分ほどの沈黙の時間を告げます。この時間の長さはそのグループの望みによります。ファシリテーターは、沈黙の時間を守るために時計を持ちます。この沈黙は、グループの人々に内的静けさをもたらすものです。

<ステップ5> この「分かち合い」のステップで、他の人に向かってすべきことや、どのように振る舞うべきなのか、などと「説教」するものではありません。このステップでは、聖書研究するような「議論」とか

「説明」をするのでもありません。本文の中にもどうしても議論したい問題があったにしても、このステップ5
ではしないでください。あれば後で議論してください。そうでなければ、祈りの精神を壊し、み言葉の分か
ち合いの最も大切な部分、つまりキリストの現存を体験するという部分を失ってしまいます。

このステップでは、各自が選んだ言葉がいかに心の琴線に触れたかについて分かち合うべきです。
ですから、その「言葉／句」をもって始めたらいいでしょう。たとえば、「この言葉が、……私の心に響き
ました」、「私は…この言葉に感動しました」など。

<ステップ6>このステップでは、グループが一緒に出来る「仕事」を見出すよう務めます。この「仕事」
は必ずしも聖書の本文から引き出されるものでなくて構いません。たとえば、それは誕生会を準備しよう
とか、困難の中にある家庭に誰かを遣わそうということでもいいでしょう。このステップでは、グループとし
て「行動に移す言葉」を選ぶことも出来ます。それは、グループの全員がここ1ヶ月間(1週間)記憶して
おこうと決めたものです。「行動に移す言葉」は、聖書の言葉からとられた言葉か句で、グループ全員が
賛成し、みんなが日常生活を送っていく上で力となる言葉です。その言葉が、困難な時には思い起こす
でしょうし、またその言葉によって主に近づけるでしょう。」

<ステップ7>最後に、望む人には誰にでも自発的な祈りをする機会を与えます。
若しくは、相応しい聖歌で終わって構いません。